

臨床化学研修会報告書
生涯教育研修会報告書
学発番号 第 12-053 号

平成 25 年 2 月 2 日報告
報告者：後藤 直樹
所属：京都保健衛生専門学校
連絡先：075-801-2571

主題：臨床検査分野 研修会
主題 1：「3 プロジェクト（国際研究 PJ、日臨技、九州 5 病院会）のデータを統合した
共有基準範囲の設定」
講師 1：渡邊 正一 氏（ベックマン・コールター株式会社 学術統括部門 部門長）
主題 2：「最近話題の検査（葉酸・エリスロポエチン・BAP など）」
講師 2：森 和雄 氏（ベックマン・コールター株式会社 学術統括部門 学術部 部長）

日時：平成 25 年 1 月 29 日（火） 18:30～20:30
場所：京都保健衛生専門学校 視聴覚教室
分類：臨床化学部門 4 検体検査 52 20 点
全体参加人数：20 人
京臨技会員参加人数：16 人
他府県会員参加人数：4 人
学生参加者：0 人
仮会員参加人数：0 人
非会員参加人数：0 人

以下、講演内容など

主題 1 「3 プロジェクト（国際研究 PJ、日臨技、九州 5 病院会）のデータを統合した
共有基準範囲の設定」

以前は同じ項目でも試薬、分析装置などによって施設間差がみられていたが、現在
ではその施設間差も小さくなってきた。しかし、施設間差は小さくなり標準化がされ
てきたにもかかわらず、基準範囲は施設によってばらばらな状態である。そのため、
精度管理調査および検査値標準化事業によって信頼性が確保された全国の基幹施設の
検査室が共同で、健常者を対象とした大規模な基準値を得、本邦において広く共有で
きる基準範囲を設定し臨床現場で活用することを目的としてきた。今回はこの結果を

報告していただいた。結果的には基準範囲の設定はできるが、検査値判読の基準は利用目的によって異なるため、基準範囲を表示するときには、異なる目的の基準を区別なしに併記する必要もある。現段階では基準範囲の統一設定までは至っていない。

主題2 「最近話題の検査（葉酸・エリスロポエチン・BAP など）」

エリスロポエチンの測定は、生体内での赤血球造血の状態を把握するうえで有用な検査である。腎性貧血における腎のエリスロポエチン分泌能評価に有用であり、エリスロポエチン投与の適応と投与量の決定に参考になる。また、ヘマトクリット値、ヘモグロビン濃度などの検査値と血中エリスロポエチン値を組み合わせることにより、様々な貧血症の鑑別診断に利用でき、多血症の病型分類などにも有用な検査である。最近ではアポトーシス抑制作用や、血管新生作用が見いだされ、EPO 受容体も心筋細胞、内皮細胞に存在することが報告されている。エリスロポエチン投与が心筋梗塞サイズの縮小と左室機能の改善が見られることも報告されている。

妊婦では出生児の低体重化や神経管閉鎖障害発症リスクの増加、動脈硬化の危険因子のひとつである血中ホモシステインの増加などに関連がある葉酸、骨粗鬆症の診断に係る骨形成マーカーの BAP（骨型アルカリセイフォスファターゼ）の説明もしていただきました。